

地域に寄り添い健康を支える

国家戦略特区の規制緩和により新設が認められた国際医療福祉大学医学部。成田キャンパスの開学から8年目を迎え、今年の3月には待望の医学部第一期生が卒業しました。卒業生が医療の現場へと羽ばたき、新たな段階を迎える同大学の取り組みを紹介します。

医療福祉の専門職の育成

国家戦略特区の指定と医学部の開学

国家戦略特区は、世界で一番ビジネスしやすい環境を作ることを目指し、地域や分野を限定し、大胆な規制・制度の緩和を行うために国が定める区域のことです。

市は「国際医療学園都市構想」と「エアポート都市構想」を提案し、平成26年5月に東京圏の一部として国家戦略特区に指定されました。この提案によって、医師の養成数を抑制するために、長らく認められてこなかった医学部の新設が、首都圏では43年ぶりに認められました。

これにより29年4月、国際医療福祉大学成田キャンパスに医学部

が開学しました。

若い力の結集

公津の杜駅前位置する成田キャンパスには、今年度およそ600人の新入生が集まりました。

全学年では約2、500人の学生が在籍していて、そのうちの約1、000人が市内に居住しています。

学業だけでなく、市内の行事にボランティアとして参加するなど、

公津の杜駅前の成田キャンパス

本市と国際医療福祉大学の歩み

年月	内容
平成26年4月	市と大学の間で成田キャンパス(成田看護学部・成田保健医療学部)の開学に関する基本協定書を締結
平成26年5月	本市が国家戦略特区に指定
平成27年11月	国家戦略特区による医学部の新設が認められる
平成28年4月	成田看護学部・成田保健医療学部が開学
平成29年4月	医学部が開学
令和2年3月	国際医療福祉大学成田病院が開院 成田看護学部・成田保健医療学部から初の卒業生を輩出
令和2年4月	成田保健医療学部放射線・情報科学科を新設
令和3年4月	臨床工学特別専攻科を新設
令和5年3月	医学部から初の卒業生を輩出
令和5年4月	介護福祉特別専攻科を新設

地域における活動にも積極的に参加しています。

医学部の特長

「国際医療学園都市構想」では、地域医療の担い手に加え、グローバルな医療人材の育成を掲げています。

医学部では、各学年の定員の15パーセントの留学生を受け入れていて、1・2年次の多くの科目で英語による授業を実施しています。また、6年次には海外での臨床実習を必修としていて、昨年度はベトナムや米国などで行いました。

昨年度卒業した医学部第一期生は、医師国家試験において、留学生15人を含む124人が合格し、合格率99.2パーセントという全国トップクラスの成績を収めました。

USMLEのStep1(米国の医師免許試験の基礎医学分野)の合格者も延べ22人に上るなど、今後も高い診療能力と国際性を兼ね備えた医師の育成が期待されます。

卒業生の進路

これまでに卒業した学生は1、500人近くに上り、医師だけでなく看護師や理学療法士などの国

家試験でも、100パーセント近くの合格率を誇っています。

就職した卒業生の約6割が県内に就職していて、県内就職者のうち約3割が市内の医療機関に就職し、地域医療の一翼を担っています。

来年の3月には、令和2年に設置された放射線・情報科学科から初の卒業生が輩出され、4月には薬学部の新設が予定されるなど、さらなる地域医療への貢献に期待が高まります。

地域医療への貢献

国際医療福祉大学成田病院の開院

医学部の付属病院として令和2年3月に開院した同病院は、当初から新型コロナウイルス感染症への対応を行い、地域の医療を支えてきました。

感染症の急激な拡大を受け、開院を1カ月前倒しして、入院患者の受け入れ・発熱外来の設置を行ったほか、ワクチンの集団接種会場への医師の派遣を行うなど、コロナ禍の最前線に対応してきました。

医療体制の充実

現在、同病院では、36の診療科

令和5年度の市民公開講座(実績)

国際医療福祉大学主催	
開催日	テーマ
6月12日	自分の身体を知りましょう～身体測定
7月14日	認知症予防運動プログラムを体験しよう
8月24日	健康診断の結果の読み方と気を付けたい病気
9月7日	難聴と認知症
国際医療福祉大学成田病院主催	
5月13日	小児科医と管理栄養士による「こどものアレルギー」
7月15日	腰・肩・足の痛み、放っておいて大丈夫ですか？
7月28日	大学病院で老化を予防する！～健康長寿の秘訣、お伝えします
9月2日	身近にある漢方の知識～残暑を乗り切って秋冬に備えよう

まちづくりへの参加

市と国際医療福祉大学の連携

市と同大学は、キャンパスを開

と600を超える病床を備え、一日平均1、000人以上の外来患者を受け入れていて、そのうちの約3分の1が本市に住んでいる人です。また、令和4年度は市消防本部からの救急搬送患者を1、000人以上受け入れるなど、市の医療体制において欠かせない存在となっています。

同病院の予防医学センターでは人間ドックの受診を受け付けています。印旛地区の受診者が全体の約6割を占めていて、地域の皆さんの健康づくりに寄与しています。

消防団女性部では、医学部の学生20人が入団し、救急救命講習の指導などを通じて、地域における防災リーダーとして活躍しています。

市民公開講座

同大学と同病院では、教育や研究の分野で知識を広く地域社会へ普及するため、定期的に市民公開講座を実施しています。身近な病

気や健康を維持する方法をテーマに、専門医や医療従事者が分かりやすく解説をしています。

日程などは、福祉と健康(19ページ)でお知らせしています。

※くわしくは、国家戦略特区制度・市と同大学の連携については国家戦略特区推進課(☎20・1506)、国際医療福祉大学については同大学総務課(☎20・7701)、国際医療福祉大学成田病院については同病院(☎35・5600)へ。



消防団の辞令を手にする学生たち